

第 37 回国際福祉機器展 H. C. R2010 出展報告

製品安全センター 標準化センター
標準・技術基準課

1. 展示会の概要

標準化センター標準・技術基準課では、業務成果の普及を目的として、世界の福祉機器が集う第 37 回国際福祉機器展 H. C. R2010（H22 年 9 月 29 日～10 月 1 日開催）に出展参加した。

当機器展は、3 日間通しての来場者は 119,451 人（表 1 参照）で、盛況のうちに閉会した。

表 1 会場への来場者数

月日	来場者数	天気	累計来場者数
9 月 29 日(水)	43,568 人	晴れ	—
9 月 30 日(木)	36,646 人	雨	80,214 人
10 月 1 日(金)	38,907 人	曇のち 晴れ	119,451 人

2. 展示内容

福祉用具に対する安全・安心について消費者の関心が高まってきていることから、当課の呼びかけにより、より安全で、安心して使うことができる福祉用具の普及に努めている機関（国立身体障害者リハビリテーションセンター、テクノエイド協会、日本福祉用具・生活支援用具協会）と隣接ブースを設置した。

当課では、1 コマ（3m×3m）のブースを設け、「福祉用具の機能別試験方法の開発」等の業務等を紹介したパネル展示（7 枚）、業務紹介パンフレット（福祉用具評価テクニカルガイド）の配布他、NITE が開発した試験装置の展示を行い、NITE 業務の最新情報の提供と成果の普及に努めた。

NITE ブースへの来訪者数は、例年より展示規模を大幅に縮小した影響もあり、約 1000 名（前年度より約 500 人減）で、その内、具体的に詳細な説明を要望された人数は、約 100 名（表 2 参照）であった。

説明を要望された来場者の中には、「NITE が機能別共通規格を開発しているのは知っている。早く一般公開して欲しい。」「NITE でも福祉用具の安全性評価や試験をしてもらえないか？」「福祉用具の安全性を確保するために技術的な相談に乗って欲しい」といった要望が多くあり、福祉用具の安全性に関する関心度が高いことが伺えた。

表 2 NITE ブースでの詳細説明応対者数

種別	人数
一般	18
研究機関	27
販売業	5
行政	14
病院・リハセンター	12
製造業	27
福祉施設・老健施設	8
福祉団体	5
在宅サービス	4
建築・設計	3
計	123



写真 1 NITE ブース全体風景